

## イスラエルの子供白書

2011年11月19日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

### アシェル・イントレーター

2010年のイスラエルにおける17歳未満の子供人口は253万人で、その内175万9千人はユダヤ人でした(残り大部分はアラブ人)。16万6千人の新生児が去年生まれました(12万人がユダヤ人)。

男の子で一番多い名前上位3位は、ノアム、イタイ、ウリ、女の子の上位3位は、ノア、シーラ、マヤでした。男の子上位10位には、アブラハム、イサク、ヤコブ、モーセ、ヨシュアといった名前は無く、かろうじてダビデとダニエルが聖書の登場人物として残っているのみです。女の子の名前上位10位にも、もはやリベカ、ラケル、デボラ、エステルは無く、聖書の登場人物としては、サラだけでした。

イスラエル人口の1/4は宗教的で、彼らは高い割合で聖書的な名前を子供につけます。それは世俗派の人は子供の名前をつける時に、敢えて聖書的なものを極力避けているという事を表しています。これは社会的な流行りにすぎないということもできますが、拡大しつつある世俗派と宗教派との亀裂であり、世俗派によるユダヤ教文化に対する反感の現れという事ができるでしょう。

あるショッキングな統計は、イスラエルの子供たちの15%は片親の家庭に育っているという事です。アラブ系あるいは宗教的ユダヤ人の中では離婚率が少ないという事から考えると、世俗派の中だけではこの数値は20%まで上がるものと思われます。

もう一つのショッキングな統計は、学校制度を利用する子供の内、28%が超正統派ユダヤ教学校に通っているということです。宗教的ユダヤ人の出生率は世俗派ユダヤ人のより高く、また超正統派ユダヤ人の出生率は、穏健な宗教的ユダヤ人のより高いのです。超正統派の多くは働かず、税金を収めず、またイスラエル政府をサポートしていないとすれば、迫り来る危機が今まさにイスラエル社会や政治経済を襲おうとしている事を、この統計は示しているのです。

### モスクのためのお金？

マアリヴ紙の週末版付録記事で、ベン・ドロール・イエミニは、去年サウジアラビアから要請された巨大モスクの建設に対するノルウェーの外相の返答を引用していました。「サウジアラビアに教会を建てるための、私たちからの献金をあなた方が受け取っていただけるのであれば、ノルウェーにモスクを建設するためのあなた方からの献金を受け取りましょう。」事はそれほど簡単なのです。

## イエシュアは神なのか

「イエシュア(イエス)は神なのか」これは、イスラエルのメシアニックムーブメントのリーダー達の間で数年来議論されて来たトピックです。ここにいる私たち全ては、彼が神聖である事を認めます。しかし新約文書の殆どがイエシュアを「神の子」と呼んでおり、「神」という呼称は父なる神に対してのみ使われているのを考えると、イエシュアを「神」と呼ぶ事がふさわしい事なのではないでしょうか。

シモンペテロの偉大な信仰告白(マタイ16章16節)は、イエシュアを「生ける神の御子キリスト(メシア)」と呼んでいます。しかし共観福音書あるいは使徒の働きの中に「イエシュアは神である」といった明白な表現を見つけ出すのは困難です。(わたしの気付いたところでは、そのような明言は新約聖書全体の中に6ヶ所だけしかありません-ヨハネ1章1節、ヨハネ20章28節、ローマ9章5節、第1テモテ3章16節、第1ヨハネ5章20節、黙示録1章8節。

福音書から黙示録までの中で、イエシュアの神性に関する弟子達の理解には段階的な発展があります。その発展には大きく分けて3つの段階があります。

1. 共観福音書と使徒の働き---メシアおよび神の御子としてのイエシュア
2. 諸教会への書簡---キリストとしてのイエシュアに内在する神の完全性(コロサイ2章9節、ヘブル1章3節)
3. 黙示録およびヨハネによって書かれた文書---モーセ5書および預言書の中の「私はある」という神

第1段階はまずペテロ(シモン)に、第2段階はパウロ(シャウル)に、第3段階はヨハネ(ヨハナン)にそれぞれ与えられたものです。ペテロはその啓示をイスラエル北部のヘルモン山の麓ピリポカイザリアで受けました。「このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」(マタイ16章17節)パウロはその啓示を体外離脱体験の中、天に連れて行かれた事(第二コリント12章1節~4節)により受けました。「ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。」-ガラテア1章12節。

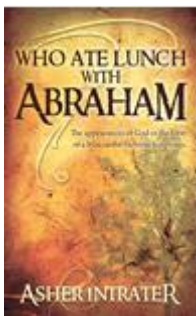
ヨハネはその啓示をパトモス島で受けました。「イエス・キリスト(メシア・イエシュア)の黙示」黙示録1章1節。黙示録の1章はイエシュアの神性についての理解にとってのターニングポイントとなりました。この章でイエシュアは旧約聖書における主の御使いの形をとって現れたのです。この啓示は、ヨハネのすべての文献に影響を与えました。

[ヨハネの8章6節は、指で十戒を彫り込んだのはイエシュアだったと示唆しました (出エジプト記31章18節、ダニエル書5章5節、24節)。また以下のように言及しました。ヨハネ8章56節は、アブラハムと昼食を共にした一人としてのイエシュアについて(創世記18章)。ヨハネ8章58節(および全

ての「私はある」という名称の)箇所では、燃えている柴の中に現われた方として。ヨハネ12章41節では、イザヤ6章1節～5節に現われた栄光を受けられた王として。黙示録1章13節～16節では、ダニエル10章4節～10節に現われた怒りの御使いとして。黙示録19章11節～13節では、ヨシュア5章13節～15節に現われた天の軍勢の指揮官として。

イエシュアを、モーセ5書および預言書における主の御使いとして認識する事によってのみ、彼の完全なアイデンティティを理解する事ができるのです。

### 誰がアブラハムと食事したのか



アシェルが新しい、長く待たれていた本「誰がアブラハムと食事したのか」が、ようやく届きました。これは、律法書や預言者の書、そして黙示録からイエシュアが主の御使いとしての姿を取ったことを分析するものです。この本はメシアであるイエシュアの永遠の特性と聖書全体を通して徐々に啓示されていくことに関し、あなたに靈感を与え、あなたの理解に問いかけるものです。

この本の主題は長年にわたってヘブライ語の文書を研究してきただけでなく、イスラエルにいる正統派ユダヤ人に福音を伝える現場での経験に基づいています。(もちろん多くの祈りや執り成しがあつたことは言うまでもありませんが)

どうか見逃さないで下さい。どうか注文し、友人にも送って下さい。注文される方はこちらを[クリックして下さい](#)。(本は英文であり、注文も全英文です。)

出版の初期に特別な割引を用意しております。1度の注文でまとめて購入される場合、10冊で10%引き、20冊で20%引き、30冊で30%引きとしております。このまとめてご注文をされる場合、[こちらにメール](#)を送って下さい。(英文)